

男性や女性

高齢者や障がい者

みんなが共生できるまちへ

ケースⅢ

和倉町町会

事例発表

私は和倉東町会という和倉温泉街の町会で、町会長をしています。和倉温泉ということで、旅館の従業員の方が比較的多く住んでいる町会です。

町会との関わりを振り返りますと、今から38年前、30代の頃、副町会長をさせていだいたときからです。町会の役員の方にもいろいろな考え方の人がいましたが、「私は町民のために何かをすることが、町会の仕事ではないか。」という思いで、町会活動をスタートしたことを覚えています。結局、仕事の関係もありその時は続けることができず辞めました。

ちなみに当時の仕事は、郵便局員です。和倉町、石崎町、奥原町に郵便物を配達していました。実は、この仕事は家の中や家族構成を知らないと仕事にならないんです。郵便の配達、保険・貯金の勧誘など、絶対に個人情報を知らないと出来ない仕事です。そういう情報が、今、町会長をしている私にとって大きな財産になっています。

こんな仕事に携わっていたので、私は地域の世帯状況がある程度わかっていました。

ある時、新しく民生委員

になられた方が、私にあるお宅の状況を聞きにきたことがあったくらいです。今はその民生委員さんも、2期務められて、私より詳しくなっています。

私どもの町会は、313世帯で、ほとんどが旅館の従業員の寮やアパートです。

いろいろな方が住んでいる和倉東町会にも問題があります。そんな問題を「支え合いマップづくり」を通して、地域の問題解決ができる知り、大変興味を持ってお話を聞かせていただいています。

現在、町会長として8年が経過しました。これまでの経験したことから、今、町会に何が必要かということを考えています。一つは、いつも家から出ないで、テレビと向き合っている高齢の方々です。

そこで、3、4年前から、「家に居てもダメだから、町会の事務所として使っている空き店舗を活用して集まらんか」ということで、週に1回集まることを始めました。町会の事務所は夜間の利用がほとんどなので、日中に空いている時間を活用しようと考えたわけです。市の高齢者活動支援事業であるグループデイ活動

を紹介して3年ほどお世話をしました。この事業は、地域で高齢者が集まる場を作り、活動することに助成するものです。

今では、和楽会という会を作つて、約30人の高齢者の方々が自立して活動をしています。参加している方は、本当に元気がなりましたよ。

ただ、先ほどの木原先生の話にあった「元気な方だけが集まっているのが現実ではないか」ということに同感でして、そういった場に来る方のほとんどが女性なんです。次は、空いている曜日に男性を引っ張り出す仕掛けも必要ではないかと思っています。男って、

出てこないんですよね。本当に、男って出不精だなと思います。

私の町会の課題としては、高齢者や男性もしかりですが、もう一つ、障がいの方の社会参加ということもあります。どうしても、障がいの方は、閉じこもりがちになる傾向があるので、家から一歩出て地域に関わる仕掛けも必要だと思ってるんですが、なかなかいい案が思いつかないですね。このことは、皆さんの知恵もお借りして、解決策を考えていければと思います。



和倉東町会長

本田雄志さん

町内で一番多い青壮年 若い新たな風を吹き込み まちづくりのエンジンに！

ケースⅣ 小丸山台町会 事例発表

私たちの町は、新しい町なので、向こう三軒両隣の関係や、人とのつながりがありません。町会です。このような現状なので、近所の状況を知ろうと思っても知ることが出来ない状況です。自分のことを話したがる、町会の行事があってもなかなか参加してくれないといった傾向もあります。

私が今まで住んでいた地域との違いは、祭りでした。祭りがあると、人が集まって来ますよね。集まるということはお互いのことを知る機会ができ、大人や子ども同士、ご近所や世代間のつながりができるのだと改めて感じていました。小丸山台は祭りがないので、今後、人とのつながりをつくる上で、どうしなければならぬのかと考えたこともあります。6年前にこの町会に引越してきて、何かしなければと思いました。

最初に思ったのは、新興住宅地なので、同じような世代がいますし、子どもたちもたくさんいます。しかし、町内には子ども会はありませんが、若い世代が活動する団体が無いことがわかり、青壮年団を立ち上げようと思いました。

まずは、小丸山台に住む同世代の知人がいたので、青壮年団を立ち上げたいということとを話しました。話した結果、「俺もそう思ってたよ。けれど自分から切り出すというのは中々難しいと思うので、そういった話があるのであればやってみるか」ということになりました。

初めに集まった人数は5人でした。5人でどうするか考えたんです。約200世帯もあると、どこにどんな人が住んでいるかわかりません。青壮年団の対象となる人も、どこに住んでいるかわからないということ、チラシを作ると一軒一軒、個人宅やアパート、マンション全てに説明して回りました。

回り始めた当初は、仕事が終わってから夜に回ったからか、ピンポンと呼び鈴を鳴らしても、玄関先で「すみませ〜ん」と一言添えても、なかなか出てきてくれなかったんです。1日目が終わった後、5人で反省会をしたんです。出てきてくれないんだけどどうしようかと。そこで、応答してくれた家のことを考えたんです。「小丸山台の高木です」と名乗ったら出てき

てくれたと気づいたんです。翌日から名乗る方法で呼びかけたら、皆さん開けてくれるようになりましたよ。200世帯全てに説明して回るのに1週間かかりました。

その後、約30人が集会所に集まり、立ち上げたい趣旨説明と、協力をお願いをしました。結果は、町会には必要な組織だと賛同をいただき、立ち上げる運びとなりました。

次に何をするかを考えました。祭りが一番の活躍の場になるということで、話し合いましたが、伝統的な祭りは予算や神社などの問題があるので、「夏祭りをやろう（納涼

祭）」ということになり、今では青壮年団の一番の仕事となっています。

また、わが家やほかのメンバーの家で飲み会を開催するようなのも始まり、奥さん同士や子ども同士のつながりも生まれてきました。

また、町会活動では、住民コミュニケーションを深めなければならぬと思います、町内広報を作り、月に1回発行しています。役員さんを写真付で紹介したり、新しく町会に入居した家族の紹介などをしています。「今度、載せて欲しい」とか、「面白かったよ」という声をいただいています。



小丸山台副町会長
高木伸安さん